

Forest Good 2019 間伐・間伐材利用コンクール

応募申込書（製品づくり・利用部門）

※受付番号 製品 10

会社名・団体名等 川村工務店

<p>製品・取組等の名称</p>	<p>木ミセル（展示パネル・間仕切り）</p>
<p>製品等の概要・特徴</p>	<p>杉を使っている。室内の癒やし効果。軽い。組み立てやすい（一人で出来る）。L型（平面的）の使い方が可能。また、壁面利用の展示のみならず、センター展示（六角形に組めます）も可能で、四方から展示できます。常時、パーテーションとしても使えます。 パネル・支えの柱・テーブルで出来ています。 全体の高さは2100mm テーブルは奥行き600です。パネルは幅910・1200mm（角は別） 重さは、大きいパネルで10kg程度小さいパネルで7kg程度です。</p>
<p>製品開発のきっかけ、取組</p>	<p>近年、木材市場では高齢木（杉）のセリが進まないことが頻繁に起こっている。競られたとしても値崩れが起き、(30,000/m³程度)山側への還元を思うと、決して有効な取引とはいえない。 小径木や障害木のみが、間伐とはいえないのです。 なぜなのでしょうかと考えると、家づくりの上で室内の設えで、家具や建具等が木製から塩ビや樹脂に変わっている。私は、建具も国産材のみでつくっています。この高齢木を(70,000から100,000/m³)引き受け製材。しかし、建具材として活用できるのは20%程度であることが解りました。和室の建具に使えるのは、そのうち半分くらいです。 その他、建具には使えないとしても、木目流れ・木目の色（白赤黒）の違いなどの部分の活用を考えました。 公民会活動での文化的作品（絵画・書道・生け花・手作り作品等）の展示は、もっぱら有孔パネルです。展示された作品もあまり映えません。「どうして？」と考えても木製品での有効な製品が無い（ただそれだけの理由）という事が解りました。又、各施設での案内板や掲示板・パーテーションも木製品ではありません。これも上記と同じ理由からです。これらを、木質化をすることで、「プラスチックから木へ！」が、進むのではないかと思いつきました。 小学校や幼児も同じ事がいえます。校舎・園舎は近年、木質かが進んでいますが、什器・備品は、多くは木製品ではありません。木育が叫ばれていますが、什器等はなぜ進まないのでしょうか。地域で生産される木材は沢山あるのに？が開発のきっかけです。</p>
<p>先進性・独創性・技術合理性</p>	<p>小学校・幼保・施設はもちろんですが、一般的な什器として使っていくことは、他に類を見ません。先人達の培った、伝統的な木組み（組子）の技術も伝承されます。今は、制作の上で時間がかかっていますが、需要の見てきた今では、地域の職人達と連携し、高度な工作機械導入ではなく、木材や技術の持続可能な製品作りが出来ます。</p>
<p>社会生活への貢献性</p>	<p>木育の上では、ただ、おもちゃや玩具ではなく、そのことを楽しむ子供達や人々、その中で働く人々を包む空間として、おおきな木育の成果が得られます。「知らず知らず木育」 疲弊する、技術を持った職人達の、各地域の仕事となります。</p>
<p>材料の地域性、有効利用の状況</p>	<p>全国に波及すれば、その地域ごとに特徴のある材（秋田は秋田の・岐阜は岐阜の材料というように！）で、生産することがいいと思います。この品種の材料を使わなくてはいけない、という概念はありません。 杉高齢木の、建具材には使用できない部分の活用には、とても効果的です。全体の、歩留まり50%まで上げる事が可能です。</p>
<p>普及の可能性・普及啓発の取組状況</p>	<p>試作品をつくり、展示したところ早速購入され、つくったという実績もあります。問い合わせもあります。製品開発したところなので、実績はごくわずかです。が、未来性は充分感じています。パンフレットをつくっているところですが、各イベントでは、作品展示のパネルとして展示。市役所ロビーでも展示です。正直、これからです。</p>

製品・取組等の
写真・図表等



壁面展示仕様
大きさはパネルの組み合わせで調整



L型部
角に隙間が出来ないようにし、
一体感をつくりました。



六角形のセンター展示用

連絡先等
(公表可能な範囲で
ご記入下さい)

(住 所) 〒527-0107 東近江市今在家町 570 番地
(担当部署等) 川村工務店 代表
(電話番号等) TEL: 0749-45-3800
(U R L) kikorikko@e-omi.ne.jp

FAX: 0749-45-3808